

国語 第3学年 中心人物について考えたことをまとめよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、人物について考えたことをまとめる。最後の大きな行動だけで人物を決めず、前の場面での姿や他の人物との関わりも確かめる。C(1)イの学習として、中心人物の紹介文。考えた人柄、根拠となる行動や会話、別の場面との関係を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：中心人物の紹介文を残す。考えた人柄、根拠となる行動や会話、別の場面との関係を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)イに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：勇敢だ、やさしいなど性格の語だけを答える。根拠が最後の場面に偏る。これについて、人物についての言葉の横に根拠の場面を書き、別の場面で確かめる。語句が出ない場合は性格を表す言葉を集め、近い意味の違いを辞書で調べる。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)イを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確認められるところがありますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：中心人物の紹介文は紙に記録できる。考えた人柄、根拠となる行動や会話、別の場面との関係を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)イの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：人物の性格を一つの言葉に決めるのか。

返し：C(1)イは行動や気持ちを叙述から捉える学習である。複数の言葉で表してよく、性格語の一致より、どの叙述から考えたかを確認する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確かめられるところがありますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

